

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【第1学年】</p> <p><国語></p> <p>○自分の考えや知らせたいことを文章にして書くことができる児童が増えた。</p> <p>▽日常的に既習のカタカナや漢字を使うことには、個人差はあるが課題が見られる。</p> <p><算数></p> <p>○数の表し方や加法・減法などの基礎・基本の定着を図ることができている。</p> <p>▽学習内容に対して基本的な理解はできているが、分かったことや気付いたことを自分の言葉で表現するには至っていない。</p> <p>▽図形、量と測定に関わる学習分野においては、習熟に個人差が大きく見られる。</p> <p>【第2学年】</p> <p><国語></p> <p>○デジタルドリルの活用や家庭学習により、漢字の読み方や使い方に興味をもったり、積極的に本を読んだりするようになった。また、漢字小テストや漢字の宿題などでは、すすんで学習に取り組み、正確に読み書きができるようになってきた。</p> <p>▽日記や教科学習等の、日常生活ではすすんで既習の漢字を使おうとしない児童が一定数いる。</p> <p><算数></p> <p>○デジタルドリルの活用や家庭での繰り返し学習により、繰り上がりや繰り下がりのある計算や、九九などが定着してきた。</p> <p>▽問題を最後まで読まずに答えたり、正しく読み取らずに答えてしまったりして、正しい式や答えを導くことができていない。</p> <p>▽かけ算では、一つ分といくつ分を意識して立式することができていない。</p> <p>▽長さの単位を日常生活に結び付けて、適切に活用できていない。</p>	<p>●まとまりのある文章を書くときに、文の構成や順序について考えるよう指導する。</p> <p>▼カタカナや漢字については、宿題や漢字テストなどを活用して、使用頻度を増やして習得につなげていく。</p> <p>●▼問題を読んで立式し、自力解決するなどの、基礎・基本のさらなる定着を図る。</p> <p>▼どの教科においても習った漢字を使用する習慣を付けさせる。机間指導の中でも声を掛けて使用させるようにしていく。</p> <p>▼問題を解いた後に必ず見直しをする習慣を付けさせる。宿題などでも文章問題に繰り返し取り組めるようにする。</p> <p>▼日常生活の中で長さの見当を付けたり測ったりするなどして、長さや単位についての感覚を身に付けさせる。</p>

【第3学年】

<国語>

○漢字ミニテスト等に取り組むことで、漢字習得への意識が高まってきている。

▽表現したいことに対して語彙が少ないため、言葉の使い方がまだ十分ではない。

<算数>

○九九が身に付きつつあるので、繰り上がりや繰り下がりやの計算の正確さが向上した。

▽問題から式を導き出すことができても、図に表すことができない。

【第4学年】

<国語>

○読み取りや要約などの学習活動の際、ワークシートの種類を選択したり、タブレット端末を活用して文章を作成したりするなど、個の実態に応じた方法を選んで行えるようにしたことで、児童が課題に取り組むことができた。

▽文章を読み解く力や語句の習得状況の差が顕著化しつつある。

<算数>

○習熟度別の学習や複数体制による学習指導を行い、個々の課題に応じた支援をしたことで、基礎学力の向上を図ることができた。

▽個の学力差の大きい集団のため、習熟度別指導など、個に応じた学習形態の工夫が必要。

【第5学年】

<国語>

○人の意見を最後まで聞くことのできる児童が増えてきた。また、人の意見を受けて話し合うこともできるようになってきた。

▽書くことに苦手意識をもっている児童が多数いる。個別指導や補助がないと課題を完成することができない児童も複数人いる。

●テストのための漢字練習ではなく、習った漢字を日々の学習や生活の中で使うよう意識させていく。

▼修飾語や漢字の音訓、語彙の習得につなげるため、辞書引き学習を継続的に行う。

●かけ算九九の定着に向けた反復練習を継続的に行う。

▼計算力だけでなく、計算のプロセスを図や言葉で説明できるよう指導する。

●引き続き、一人一台のタブレット端末の活用など、児童が様々な方法で表現ができる環境を整える。

▼各単元の言語活動について、既習事項とのつながり、積み上げを児童自身が意識できるよう取り組ませる。

●引き続き、習熟度別指導を実施する。

▼筆算の計算手順など、4年生までの基礎・基本の復習を行いながら、学年の学習内容を進めていく。

●基本的な話し方のルール、聞き方のルールを掲示し、徹底させていく。

▼自分の考えを書いて発表する場面や機会を多く設定し、必要感をもたせて日々の学習に臨ませる。

▼ワークシートを活用したり、例文にたくさん触れさせたりするなどして、書くことに慣れさせていく。

<算数>

○支援が必要な児童に対して個に応じた指導を進めたことで、学力の定着が見られた。

▽既習事項を生かして解こうとする児童が少ない。

【第6学年】

<国語>

○自分の考えを広げたり深めたりするために友達と交流する機会を多く設定した。根拠を明らかにしたり考えを表現する言葉を吟味したりする時間も十分にとったことで、自分自身の考えの質を高め、交流に臨むことができた。

▽もった考えや深めた考えを伝える力は付いてきたが、その考えを書くときになると、省略してしまったり、漢字を使わなくなってしまうたりする。

<算数>

○課題に対する自分の考えをノートに順序立てて書き、解法のプロセスが自分自身にも相手にも分かりやすく示せるようになった。

▽他の教科以上に定着に差がある。特に計算や数量関係の内容では、差が目立つ。

▼既習事項を常に意識して自力解決をするよう促す。

▼ヒントカードや個別対応をするなどして、分からないときには既習事項を想起して考える習慣を付けさせる。

●自分自身の考えについて、根拠を明らかにさせるための時間を確保し、自信をもって活動できるようにする。

▼漢字の読み書きが定着するまで練習や確かめを繰り返したり、落ち着いて書く時間を確保したりして、書くことに慣れさせていく。

●書いた自分の考えを基に、相手に分かりやすく発表し、よりよい解法を吟味していく力を付けさせる。

▼デジタル教材を用いて、自分の分からないところまで戻って個別に苦手なことを克服していく。